

大宮 おほみや〔紫野北むらさきのにあり、祭る所神秘なり、加茂に属す。大宮森おほみやのもり、同所神木をいふ〕

小野 篁塚 をの、たかむらのつか〔紫野雲林院卯辰の方二町ばかり畠のあひだにあり〕

紫式部塚 むらさきしきぶのつか〔篁塚の西なり、上に榎あり〕○花鳥余情くわてうよじやうに曰、紫式部が墓所は、雲林院の末院白毫院うんりんあんの南、小野篁が墓

の西にあり。○岷江入楚みんかうにつそに曰、宇治の宝蔵ほうざうの日記にも、紫野雲林院にあるよし見えたり、式部しきぶは檀那院だんな僧正そうじやうの許可を蒙りて、天台一心三觀てんだいいつしんさんくわんの血脈に入れり、兼てより雲林院うんりんあんの幽閉をしめけるも旁ゆへあるにや。

天皇塚 てんわうづか〔雲林院村の東にあり、一説円融院えんゆうあんの陵なりといふ〕

惟喬社 これたかのやしち〔雲林院の南、今宮御旅所東の路のかたはらにあり〕

若宮八幡宮 わかみや はちまんぐう〔御旅所たびしよの西、藪の中にあり。伝云、むかし此所源みやもとの頼光らいくわうの居館にして、其地に祭る所なり、初は嚴

重にして大廈なり〕

頼光塚

〔船岡山の南西にあり。伝云、源頼光塚なりとぞ〕

石不動

〔金閣寺にあり。本尊の不動明王は立像六尺二寸、脇士は金伽羅、勢多迦の二尊も立像にして三尺ばかりなり、前に高麗犬あり、共にみな石をもつて作る、是弘法大師の作なり。安置する所は岩窟なり。又堂内の地藏尊は安阿弥の作にして、南の壇に宝冠の釈迦仏、又不動尊を安置す、是智証大師の作なり。此像頭髮なし剃が如くなり〕

浄蔵貴所塔

〔金閣寺の門前にあり〕 不動石 〔金閣寺北鏡石より一町ばかり北の山上にあり〕

六請明神社

〔金閣寺の南、衣笠丘の良林の中にあり。祭神未考、土人産砂神とす、例祭は九月廿七日〕

十禅師社

〔龍安寺門前の西にあり、土人生土神とす、例祭は九月十日〕

仁和寺濟信法親王塔

〔右のやしろ北二町ばかり山上にあり〕

宇多野うたの〔仁和寺にんわじのほとりの惣名そうみょうなり〕大内山おほうち〔仁和寺にんわじのうしろの山をいふ〕

光孝天皇陵くわうかうてんわうのみさぎ〔仁和寺山門にんわじの西一町ばかり、田の間にあり〕

車塚くるまつか〔此塚こゝの南二町ばかり、嵯峨道さかみちの北にあり〕

福王神社ふくわうじんのやしろ〔仁和寺にんわじの西、福王寺村ふくわうじにあり、祭所光孝天皇くわうかうてんわうの後、寛平法皇くわんへいほうわうの御母おぼなりといふ。土人とじん産砂神うぶすなじんとす、例

祭は九月二十八日、神輿かみこ一基〕

宅摩塚たくまづか〔鳴瀧高なるたきたか雄道みちのかたはら、右のかたにあり。伝云、むかし絵師えし宅摩たくま、柵尾明恵とがのをみやうゑ上人じゆんを信敬しんけいす。明恵、解脱げつだつの

両上人りやうじゆんは春日住吉かすがすみやしの二神常に擁護ようごを加へ給ふ。ある日宅摩明恵たくまみやうゑの室むろに至るに、障子しょうじの内うちに人無にんなうして上人じゆんと話答わだかまの声こゑあり、宅摩あやしみてこれを問ふに、時々春日住吉影向かすがすみやしえうがうあり、けふも又またしかりとぞ。宅摩寄感まくまきかんして障子しょうじの間より窺のぞふに両人列座りやうにんれつざす、光相くわうさうおよび衣服等いふくどうよのつねに異ちがなり。頓とんて筆ふでを執とて謔げつに神相しんさうをうつす、此画像このゑが今柵尾山とがのをにあり。宅摩帰京たくまきけいの時とき此所こゝにおいて落馬らくまして死しす、是即凡人神相ほんじんしんさうを写うつす冥罰みやうばつなりとぞ。遂すなはにこゝに塚づかを築つくて験ごんとなすなり〕

清瀧河きよたきがは

〔梅尾高山寺門前の橋下のながれなり。水源下小野より出て此地をながれ、愛宕の麓を歴て大井川に入るな

り〕